

# 節分会



今日のご縁日

2/3  
土曜日  
15:00~

2月3日15時より節分会法要を執行致します。  
法要中、僧侶が般若心経をお唱えする中、年男が本堂内、  
神楽殿において豆まきを行います。  
また、参道ではお神酒が無料で振舞われます。  
昨年度は規模を縮小しての開催でしたが、今年は5年ぶりに  
通常通りの開催となりますので、是非ご参拝ください。

節分札 500円

福豆 一合枰 500円

一升枰 3000円

【寺務所にて受付中】

(本堂にて頒布。売れ切れ次第終了)



2/20  
火曜日  
11:00~

## 【浴油講】

【寺務所にて受付中】 講金 2000円

毎朝の浴油祈祷に用いる<sup>ごま</sup>胡麻油をお供えいたします。皆様からご志納いただき、上質な胡麻油を尊天様に捧げます。  
講に申し込まれた方にはお加持された食卓用胡麻油をお授け致します。  
是非お申し込みください。

## 駐車場閉鎖について 2月5日~3月28日(土日祝・ご縁日除く)

駐車場の入り口の整備工事のため、上記期間中の平日は終日駐車場を閉鎖いたします。(朝まいり期間中は午前9時より閉鎖)  
公共交通機関でお越しいただくか、近隣のコインパーキングに停めていただくようお願いいたします。  
ご不便をおかけして申し訳ございませんが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

### 朝まいり会

2月1日~7日 午前8時~8時半 会費:500円也  
皆様と一緒に「大聖歓喜天礼拝作法」を読みます。  
毎日参加されなくても1週間のうちで、ご都合のよろしい日にご参加ください。

### 写経の会

2月11日(日) 午前10時・午後1時 会費:500円也  
お経を一字一文字丁寧に写すことにより仏様の功德をいただけます。

### 日曜勤行

2月11日(日) 午前9時 参加費無料  
初心の方も気軽に参加いただけるお勤めの会です。

### 合同大般若法要

2月25日(日) 午前11時 法要料:5000円也  
皆様とご一緒にお上げする御礼の法要です。  
ライブ配信も行います。そちらもどうぞご利用ください。

### 要予約 坐禅の会

2月24日(土) 午前9時半~10時半 参加費:500円也  
僧侶より説明を受けながら坐禅の修行を体験できます。  
足の悪い方は椅子でのご参加もできます。  
事前に寺務所にてご予約ください。

### ライブ配信のご案内 (配信QRコード)

御縁日法要・合同大般若法要のライブ配信  
を行っております。



皆様からのご質問、お知りになりたいことを受け付けております。  
ご意見やご質問は [ityou@matsuchiyama.jp](mailto:ityou@matsuchiyama.jp) までメールをお送りください。



# いちよう

## 令和6年能登半島地震のお見舞い

この度石川県能登地方を震源とする地震により被災された皆様に  
心よりお見舞い申し上げます。  
また、一日も早い復興をお祈り申し上げます。



私の生家の近くに<sup>みずみや</sup>水宮神社というお宮があります。カエルの<sup>こまかいぬ</sup>狛犬(コマカエル?)が迎えてくれる面白い神社です。「<sup>まかせん</sup>摩訶山 <sup>はんにやいん</sup>般若院」と山号があり、またお不動様等もお祀りされています。元々は京都の聖護院の末寺で、明治の神仏分離令で神社とされたようです。私自身も聖護院の山伏ですので、その親しみもあって実家に帰る時にはときどきお参りしています。  
先日水宮様にお参りした時、新しいお堂が立っていました。さっそく参拝すると、かわいらしいカエル達に囲まれて、修験道の開祖である<sup>えん</sup>役の行者様の素晴らしいお像がお祀りされていました。聞けば神仏分離令によって隣町に移されたものが150年ぶりにお戻りになったとの事です。  
「<sup>なむじんべんだいぼさつ</sup>南無神变大菩薩」と宝号をお唱えしながら、150年という時間の長さとお神仏分離令の罪の重さを改めて考えました。

ところで、以前当山のご縁日についてこの紙面(令和5年2月号『聖天様のご縁日』)で、江戸時代はご縁日の9月20日には近隣の町内にお<sup>みこし</sup>神輿が出たとご紹介しました。今の門前の駐車場辺りに、神輿庫があったようで『江戸名所図会』にも「ミこしや」(図の左端)としっかり描かれています。しかしこのお神輿も神仏分離で無くなったそうです。  
浅草寺の末寺でも明治時代に浅草神社やお富士さん(富士浅間神社)、今戸神社などが神社とさせられました。当山も同様に<sup>ごんげん</sup>権現造りの本堂やお神輿、御神鏡といった神社系の品物が多いことから、一時期「神社」とみなされたそうです。  
それに対して聖天様は<sup>ほんじ</sup>仏神であり、十一面観音様を本地とすること、当時の住職のみならず、浅草寺の学僧たちも熱心に説明されて、無事に当山が密教寺院であることが認められたそうです。しかしその代わりに「神道と紛らわしいものを一切取り除くべし」という官達が出て、お神輿や鏡などが当山から破棄されたそうです。聖天様のお神輿はさぞ流麗だったことでしょう。本当に残念なことです。

本  
龍  
院  
執  
事  
  
深  
谷  
昌  
広





## 「袴」

節分は、春分の前日に豆をまいて邪気払いをする年中行事であります。今年は2月3日に行います。

季節の変わり目には邪気が入り込みやすく、その邪気や鬼を追い払うために、年男・年女、そして厄年の人が豆をまくと良いとされます。当山では豆まきの時に年男が袴(かみしも)をつけます。今回はそれについてみていきましょう。

江戸時代の武士の正装で、本来、同質同色の上下が対になったものを上下(かみしも)と呼びました。上に肩衣(かたぎぬ)と呼ばれる袖なしの胴衣を着て、下には袴をはいて一揃いの物として着用する衣服であることが命名の起源です。

もともと室町時代には肩衣袴(かたぎぬばかま)だけでなく、直垂(ひたたれ)や素襖(すおう)と呼ばれる上下の着装がありました。肩衣と袴が武士の間で一般に公服とされるようになると、これが共布でできているものを袴というようになりました。

しかし、江戸時代には日常的に上下で着用する衣服が、事実上は肩衣袴だけになってしまったため、袴は肩衣袴を指す言葉となりました。時代が進むにつれて、袴の着方は徐々に変化していき、江戸中期には、肩幅が広がり、鯨のひげを入れて肩先を強く張らせるなど、見た目も厳かで派手になっていきました。幕末には、袴に代えて羽織袴を平常服とすることになり、慶応3年の大政奉還以後、公人が袴を着用することは廃され、男性の礼装は紋付・羽織袴となったようです。そして伝統芸能や祭礼などの民間の諸行事においては現在でも用いられています。

袴が江戸時代の武士の礼装ということで、堅苦しい態度をやめて、気楽に打ち解けることを意味する「袴を脱ぐ」といったことわざもあります。



## 世話人往来

新たに当山の世話人として、高麗正和様、石川一浩様、上嶋聖人様、久優子様、佐藤静江様、進藤一女様が就任されました。新世話人の皆様には当山のさらなる発展に向けてご尽力いただければ幸いです。これからの世話人会の活動が、会員の皆様にとってより充実した経験となり、当山の一層の繁栄につながることを祈念しております。

谷川智典様  
訃報

待乳山本龍院の元総代である谷川智典氏が、昨年末享年78歳にてご逝去されました。平成2年から総代に就任し、当山の発展に献身的に取り組まれ、令和3年にご勇退されるまでの30年以上にわたり待乳山本龍院の総代として、寺院の運営や発展に重要な役割を果たしてきました。谷川氏のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

## お宮参り 報告

ご宝前にて無病息災を祈念し、行者よりお加持を授かりました。健やかなご成長をお祈り申し上げます。



中田光剛さん

## 星祭

12月22日星祭法要を執行いたしました。厳しい寒さの中でしたが、多くのご信徒様ご参加のもと来年の除災招福をご祈念いたしました。

## 正月・大根まつり

午前0時の開堂の鐘とともに新年を迎えました。

三が日に計10座行われた正月特別祈祷には、去年を大きく上回る多くの方がお申込みされ、明るい新年を期待させるにぎやかなご祈祷となりました。

また、午前11時から午後3時の間、当山の総代・世話人によるお屠蘇接待が行われ、4年ぶりに多くの参拝者が接待を受け、今年1年の開運を祈念いたしました。

例年以上に多くの参拝者が初詣にお越しいただき賑わいを見せていた三が日でした。

1月7日11時より大般若講大根まつりの法要を執り行い、法要終了後には4年ぶりに風呂吹き大根が振舞われました。

日曜日ということもあり多くの方がご参拝に見え、2000食の風呂吹き大根はあっという間に完食となりました。

## ◀ ご報告 ▶



参道入り口にある提灯一對をご奉納賜りました。  
松本達郎様



## 正月供物御奉納

正月を迎えるにあたりご信徒の皆様よりお供え餅をはじめとするたくさんの供物をご奉納いただきました。これらのお供え物は、価値以上にその中に込められた心が重要です。温かな思いや感謝、尊天様への敬意が供物に宿っています。それは当山にとってとても大切なものです。ありがとうございました。

## ご祈祷のご案内

聖天様独特の供養法である浴油供は、密教の中で最も深秘の法とされています。この供養法は聖天様のお力がより一層高められ、私どもが不可能と思われるような願い事でも、尊天様の不思議方便のお働きを得て、必ず成就させて頂けるのであります。

当山ではこの浴油祈祷を、毎朝開堂と同時に厳修しております。寺務所にて受け付けておりますので、お名前とお

願いの内容、祈祷期間をお伝え下さい。またご遠方の方やお急ぎの方は、お電話やお手紙でも受け付けております。どうぞお申込みください。

## 祈祷料

別座祈祷 壺万二千円(一週間)  
浴油祈祷 四千元(一週間)  
華水供 六百元(一日)

## 法要案内

当山では予約にて法要を行っております。寺務所にてお問い合わせください。

## 百味供養 法要料 八万円

沢山のお供物をお供えし、出仕の僧侶が声明をお唱えることで、尊天さまに御礼の供養をいたします。

## 大般若法要 法要料 五万円

所願成就御礼の法要として、大般若経六百巻を転読いたします。

## 自動車加持 法要料 壺万円

当院にてお車のお加持をいたします。当日はお車にてお越しください。

